

5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和8年度 伏木高等学校アクションプラン - 1 (1) -		
重点項目	学習活動（学習指導）	
重点課題	生徒の意欲を高め、思考を深める授業の工夫	
現 状	・本校では少人数クラスを活かし、各教科できめ細やかな授業を展開している。しかしながら、主体的に学習に取り組めない生徒が多く見受けられる。理由としては、基礎的な内容の理解が深められず、学習に対して自信が持てないことや「分かった」と実感できる機会が不足していること等が考えられる。わかりやすい授業と生徒の意欲関心を高め思考を深める授業を通して、自律的学習への転換を図りたい。 ・教員へのアンケート調査を実施した結果、授業における「教授」と「活動」の時間のバランスや生徒主体の活動の中で、どのようにして生徒の意欲を高め思考力を育むべきかを課題として挙げている意見が多くみられた。	
達成目標	① 学習に主体的に取り組む、理解を深めることができたとして自己評価する生徒の割合	② 教員相互による授業研究を年間3回以上行い、授業改善や生徒理解につながったと感じる教員の割合
	60%以上	75%以上
方 策	・2週間の互見授業期間を年2回設定し、テーマを意識した授業実践を行う。相互評価や意見交換を行うことで、自己の授業を振り返り今後の授業改善につなげる。 ・生徒の理解を深めるために ICT 機器を効果的に使用する。 ・スタディサプリやグーグルクラスルームを利用し、学習、週末課題などに積極的に取り組めるようにする。 ・面談や学習計画作成を通し、担任や科目担当者から個々の生徒に適した学びの方法を助言する。	

〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

令和8年度 伏木高等学校アクションプラン - 1 (2) -		
重点項目	学習活動（国際理解教育）	
重点課題	国際交流活動の推進	
現 状	・第2外国語として、中国語、韓国語、ロシア語を学び、2年生のときに語学研修に参加しているが、選択者数に偏りがある。 ・学校全体で友好校を受入れ、ホームステイを実施している。2年生の語学研修時に友好校を訪問し、ホームステイを体験している。	
達成目標	① 友好校との交流や地域の様々な国際交流活動に積極的に参加する。	② 校内の情報共有や校外への情報発信を通じて、国際交流を促進する。
	積極的に参加した生徒80%以上	ニューズレターの発行年6回
方 策	・海外語学研修の実施と継続への取り組み。 ・本校訪問の受け入れ、ホームステイの受け入れ、オンライン交流等の実施。 ・学校外と教科や部活動等の学校内との連携を調整。 ・ニューズレターの発行とインスタグラム（英語版）による情報発信。	

〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

令和8年度 伏木高等学校アクションプラン - 2 -		
重点項目	学校生活（生徒指導、保健衛生）	
重点課題	自らを律し、学問・スポーツ・芸術の鍛錬を通して、意欲的に世界を学び続ける生徒の育成 環境美化と健康への意識向上	
現 状	【自発的・主体的な活動】 基本的な生活習慣の定着およびモラル意識の向上を目指し、授業・学校行事・部活動等のあらゆる場面で指導を継続してきた結果、生徒の態度は着実に改善の途上にある。しかしながら、重点課題克服のため、生徒がそれらの活動を真に自発的・主体的に展開するにはさらなる向上が求められる。 【環境美化と健康への意識向上】 環境美化活動への意欲的な参加や取り組みについて生徒の意識は高まっており今後も継続的に活動を行っていきたい。学校生活を健やかに送るため、基本的な生活習慣の確立を目指して生活の中で食事、運動、睡眠休養など健康への意識を高めていきたい。	
達成目標	① 自律と鍛錬（行動指標）で、そう思う以上の割合	② 清掃など環境美化活動へ意欲的に参加したという生徒の増加 ③ 学校生活の中で健康（運動）についての意識が向上したという生徒の増加
	80%以上	
	④ 世界を学ぶ意欲（探究・国際指標）で、そう思う以上の割合	
	80%以上	
方 策	【自発的・主体的な活動】 ・学校生活に関する実態調査を通じて現状を把握し、その分析結果を全教職員で共有する。さらに、個人面接、HR、各種集会等のあらゆる機会を捉えてアンケート結果を生徒へフィードバックし、自発的・主体的な活動の重要性を啓発するとともに、必要に応じた改善策を生徒と共に講じる。 【環境美化と健康への意識向上】 ・生徒対象にアンケートを実施し、清掃活動の取り組み状況を把握する。清潔で整った環境づくりの推進と美化週間などの活動を通して、環境美化活動やゴミ捨てマナーの意識付けを図る。 ・主体的な健康保持増進の意識向上を課題に保健委員会からの保健だよりなどを活用して生徒が発信できるような機会を増やす。	

〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

重点項目	進路支援（進路指導）	
重点課題	進路目標の明確化と進路実現	
現 状	・自己の適性に応じた進路目標を抱くことができるように、進路に関する情報提供の機会を多く持ち、個々に寄り添った面談を重ねるように努めている。 ・進路目標の早期決定により、各自の課題を明確に把握し、日々の学習に対するモチベーションの向上に努めている。	
達成目標	① ２年次で経験するインターンシップやオープンキャンパスなどに積極的な参加ができた生徒の割合	② 第３学年の進路決定について、満足のいく進路実現ができた生徒の割合
	８５％以上	９０％以上
方 策	・進路関係行事を啓発の機会と捉え、進路意識を高め、早期に進路目標を明確にさせるよう努める。 ・２年次に行うインターンシップやオープンキャンパスなどへの参加を、進路選択の貴重な体験の場として位置づける。積極的かつ意欲的な参加を通して、具体的な目標へと結びつけることができるようサポートに努める。終了後は、レポート作成やプレゼンテーションを行うことを通して、生徒同士が多くの情報を共有し、互いに刺激し合いながら自己の適性を把握し進路意識の向上を図る。 ・面談を重ねることで、現実を客観的に把握し、将来にむけての課題を明確にさせる。	

〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

重点項目	特別活動（地域交流活動と読書指導）	
重点課題	地域交流活動の活性化と読書教育の充実	
現 状	【地域交流活動の活性化】 本校では地域の方々と関わりながら行うボランティア活動を数多く実施しており、生徒の成長を育む重要な活動の一つとなっている。一方で生徒会執行部やボランティア部など一部の生徒で活動することが多く、より多くの生徒にボランティア活動の参加を広める必要がある。 【読書教育の充実】 本校では、読書体験が少なくその効用や楽しさを経験していない生徒が多い。年２～３回の読書期間（朝読書）を設定し、「BOOK TALK」や「図書だより」等の広報活動を通じて、読書に親しむことができる環境を整え、読書の魅力を伝えていくことが必要である。	
達成目標	① 生徒が地域交流活動に参加してその意義を実感し、継続的な活動の必要性を意識する。	② 読書活動に参加した生徒の割合（読書記録ノートの提出率調査）
	事後アンケートで、また同じボランティアに参加したいと回答した者８０％以上	生徒の不読率２０％以下
方 策	【地域交流活動の活性化】 地域活動への参加を学年や部活動、委員会といった種々の活動単位ごとに積極的に呼びかける。また、海岸清掃や学童保育の手伝いなど、自分たちができることを自ら企画するよう促す。 【読書教育の充実】 新入生への図書館オリエンテーションと全学年の朝読書を実施する。読書経験の振り返りができるように、朝読書の際に「読書記録ノート」に各自の感想やコメント等を記録する。図書館の読書コーナーの内容や展示の仕方を工夫し、朝読書用のクラス文庫を設置するなど生徒が本を手に取りやすい手立てを講じていく。	

〈評価基準〉 A：達成した B：ほぼ達成した C：あまり達成できなかった D：達成できなかった